

県政調査計画書

令和 7 年 12 月 5 日

神奈川県議会議員 長田 進治 殿

会派名 公明党神奈川県議会議員団
団長名 西村 くにこ

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 小野寺 慎一郎 (団 員) 藤井 深介 亀井 たかつぐ
2 調査目的	甚大な豪雨災害が市民生活に与えた影響や復旧の取組、民間主導型エリアイノベーションの取組、地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の取組、認知症の方の尊厳を重視するケア手法として注目されているユマニチュードの取組について調査し、本県における防災・減災施策、まちづくり施策、観光振興施策、認知症施策の参考とする。
3 調査期間	令和 8 年 2 月 2 日 ～ 令和 8 年 2 月 4 日
4 調 査 地	熊本県、鹿児島県、福岡県
5 調査項目	(1) 人吉市役所 令和 2 年 7 月の甚大な豪雨被害から復旧された人吉市を訪問し、豪雨災害が市民生活に与えた影響や復旧の取組について調査し、本県における防災・減災施策の参考とする。 (2) 小浜ヴィレッジ 少子高齢化や空き家問題などの都市経営課題を解決しながらまちの魅力を向上させるリノベーションまちづくりは非常に重要となっている。 そこで、民間企業が主導するエリアイノベーションによってつくられた複合生活拠点である小浜ヴィレッジを訪問し、完成までの経緯や実際の様子を調査し、本県におけるまちづくり施策の参考とする。



	(3) 霧島市役所 本市では、「食」にまつわる様々な分野を融合させながら地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の理念に沿って、地域経済の活性化や交流人口の拡大を図るため、「霧島ガストロノミー推進協議会」が設置されている。 そこで、これらの取組を調査し、本県における観光振興施策の参考とする。 (4) フェリオ百道 近年、認知症の方の尊厳を重視するケア手法であるユマニチュードが注目されており、共生社会実現に向けても普及が進められている。 そこで、ユマニチュードの技法を積極的に取り入れている本介護付有料老人ホームを訪問し、導入方法や導入の効果について調査し、本県における認知症施策の参考とする。 (5) 九州大学大学院システム情報科学研究院 本研究院では、ユマニチュードの担い手育成のための「ユマニチュードAR訓練システム」を開発しており、本システムの効果や導入の可能性について調査し、本県における認知症施策の参考とする。
6 経費の概算額	1人当たりの議員旅費 … 195,864 円 内訳 交 通 費 … 144,164 円 宿 泊 費 … 48,400 円 視 察 料 … 3,300 円

* 日程表を添付する。

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関等	調査箇所及び調査内容
1	2/2 (月)	熊本県	午前 午後	飛行機 車両	移動(羽田空港→鹿児島空港) ●視察1「人吉市役所」 ・豪雨災害が市民生活に与えた影響や復旧の取組 ＜人吉市内泊＞
2	2/3 (火)	鹿児島県	午前 午後	車両 車両 新幹線	●視察2「小浜ヴィレッジ」 ・民間主導型エリアイノベーションの取組 ●視察3「霧島市役所」 ・地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の取組 移動(鹿児島県霧島市→福岡県福岡市) ＜福岡市内泊＞
3	2/4 (水)	福岡県	午前 午後	公共交通機関 公共交通機関 飛行機	●視察4「フェリオ百道」 ・介護付有料老人ホームにおけるユマニチュードの導入方法や導入の効果 ●視察5「九州大学大学院システム情報科学研究院」 ・「ユマニチュードAR訓練システム」の効果や導入の可能性 移動(福岡空港→羽田空港)

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 小野寺 慎一郎 (団 員) 藤井 深介 亀井 たかつぐ
---------	--

1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調 査 経 費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 195,864 円であり、基準を満たしている。	適
② 調 査 箇 所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 か所以上調査実施 移動日は 1 か所以上調査実施	2 泊 3 日の行程の中で、移動日は 1 箇所以上、それ以外の日は午前及び午後それぞれ 1 箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	(1) 人吉市役所 令和 2 年 7 月の甚大な豪雨被害から復旧された人吉市を訪問し、豪雨災害が市民生活に与えた影響や復旧の取組について調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (2) 小浜ヴィレッジ 少子高齢化や空き家問題などの都市経営課題を解決しながらまちの魅力を向上させるリノベーションまちづくりは非常に重要となっており、民間企業が主導するエリアイノベーションによってつくられた複合生活拠点である小浜ヴィレッジを訪問し、完成までの経緯や実際の様子を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (3) 霧島市役所 「食」にまつわる様々な分野を融合させながら地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の理念に沿って、地域経済の活性化や交流人口の拡大を図るため、「霧島ガストロノミー推進協議会」を設置している本市の取組を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。

	(4) フェリオ百道 近年、認知症の方の尊厳を重視するケア手法であるユマニチュードが注目されており、共生社会実現に向けても普及が進められている中、ユマニチュードの技法を積極的に取り入れている本介護付有料老人ホームを訪問し、導入方法や導入の効果について調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (5) 九州大学大学院システム情報科学研究院 ユマニチュードの担い手育成のための「ユマニチュードAR訓練システム」を開発している本大学を訪問し、本システムの効果や導入の可能性について調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。
② 調査の実施時期が時宜を得たものか。	今回の調査対象項目は、いずれも本県の課題と共通するものであり、本調査により先進的な取組や事例を調査することは、時宜を得たものである。
③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。	各分野において、今後の本県における施策に活用していくためには、現地に赴き、担当職員等から具体的かつ詳細に調査及び聴取しなければ調査目的を達成することができないものである。
④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。	調査箇所、行程、経費等は、県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当なものである。